



報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。

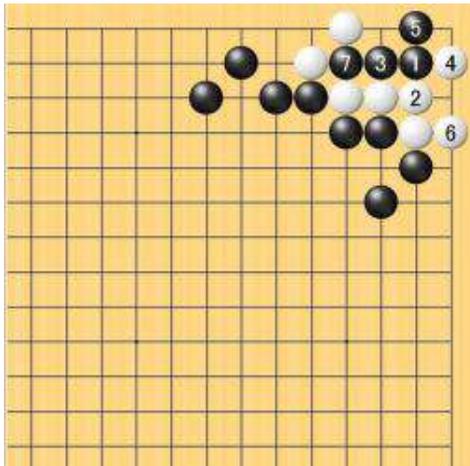
(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号でも 直観力とヨミの精度を鍛える詰碁問題をご案内したいと思います。

(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

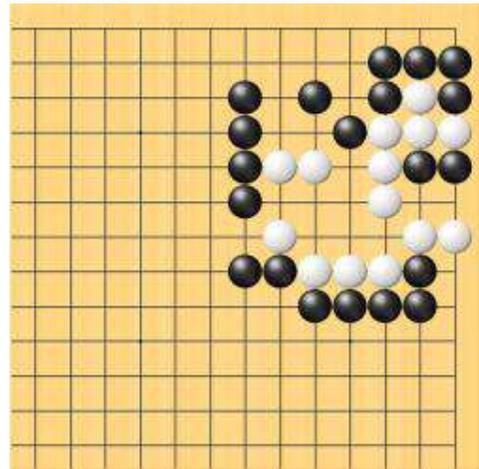
詰碁問題 **詰碁で直観力とヨミの精度を鍛える** 棋力を伸ばしていくためには、やはり部分の戦闘力である死活を読む力が要求されます。そのための最善のトレーニング法として、昔から詰碁を解くことが奨励されてきました。自分の棋力に合った詰碁を繰り返し解くことによって、直観力を鍛え、読みの精度を高めることができます。

詰碁問題5 **正解** (前号からのつづきです)

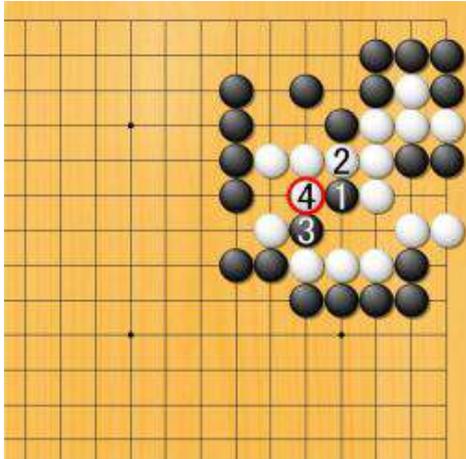


正解は黒1～3です。白4には黒5が大事な手。白6と眼をつくれば黒7のキリ、また白7なら黒6と眼を奪う手があり、両者は見合いになっています。

詰碁問題6 黒番 白を取ってください。

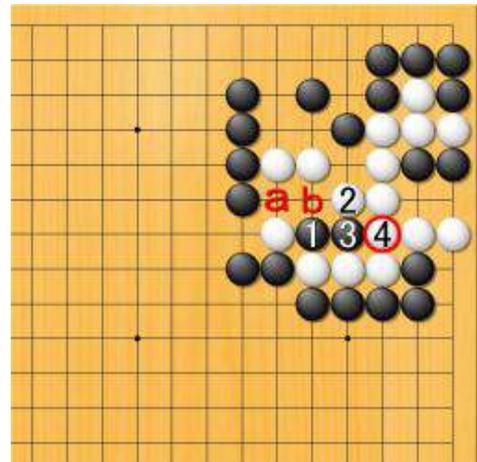


詰碁問題6 **失敗**



黒1は「三目の真ん中」で筋のようですが、白2でもう黒1の石を生きさせることはできません。白をダメツマリまたは欠け目にする狙いは錯覚でした。

詰碁問題6 **正解**



黒1のキリが正解で白2には黒3、白4まで。この後黒aには白bと打って白を欠け目にします。なお、白2で3は黒2と打ち、やはり白死です。

次号からは 攻防の手筋と攻め合いの手筋。読み抜く力をつけるための【手筋問題】を6題ほど用意します。お楽しみに。